槇島村
御役人中

弥兵衛同

三〇〇　差入置申一札之事（六石山尼ヶ瀬道付替につき）

差入置申一札之事

一槇島村領字六石山、其元衆中御所持之山中江尼ヶ瀬道筋所々付替仕度候ニ付願相済候上、右山所持之衆中江其段御願申上候処、御承知被下忝普請取懸り可申候、依之向後若自然新規普請所道筋之間上下不限土砂方様御目障りニ可相成様崩落候場所等出来仕候ハヽ、当郷中より急度手入普請仕、六石山所持之衆中江ハ勿論槇島村江茂聊役界相懸申間敷候、為後日一札差入置申処仍而如件

宇治田原郷中惣代
上町村庄屋　又右衛門（印）
下町村庄屋　儀兵衛（印）

天保五甲午年六月

六石山御年番
御惣代中

三一八　（弐百ヶ年宛山に差入証文）

（前欠）

東三郷田原立会　南三郷立会山
四方境　又田原郷立会山一本松限　又白川山限

西宇治郷山限り　北大川

右之山此度就勝手ニ四方境目限り立木生立之侭年限弐百ヶ年与相極メ代銀七拾貫目ニ而宛山ニ致シ、右代銀慥ニ請取申処実正明白也、然ル上者土砂方見分者勿論其外於山内ニ如何様之故障出来候共、諸色万端当村方へ引請可申、并新浜道ニ而茂一切懸合無之浜道往来筋ニ何等之難渋出来仕候共、当村方より早速罷出急度埒明、其許殿江少シ茂御難相懸ケ申間敷候、立木御勝手次第御伐取可被成候、土砂留之儀者其許殿より植付手入可有之相極メニ而、右山勝手次第御支配可被成候、村方一統末々ニ至迄得心之上取極メ、年限中少シ茂違背申間敷候、万一小前之者たり共違背申者有之候ハヽ、連印之者共早速罷出急度埒明、其許殿江毛頭後難相懸ケ申間敷、尚又山内有来り候石灰焼之地料等其許殿江御請取可被成候、若又御支配年限中ニ其許殿就御勝手ニ外方へ御譲替被成度候節者、御勝手次第可然候様可被成候、其節一言之申分毛頭無御座候、為後日年限中宛山連印一札依而如件

弘化三年
午二月

槇島村
庄屋　宗治
同　幸助
年寄　新九郎
同　伝七
同　重右衛門
同　清右衛門
頭百姓　与右衛門
同　善左衛門
同　治兵衛

同　与八郎
同　重兵衛
同　平四郎
同　善五郎
同　助右衛門
同　幸太郎
同　新右衛門
同　藤右衛門
同　庄右衛門
田原郷之口村
世話人　五兵衛
大道寺村　久五郎

奈島村
徳左右衛門殿
金兵衛殿

五八〇　差入申一札之事（六石山分地につき）

差入申一札之事

一槇島村領字六石山先年奈島村金兵衛殿へ年限弐百ケ年之間宛山ニ致置候処、其内右山三歩通其御村方江分地被致、御年貢之儀者銀弐拾目ニ相極メ有之候処、此度双方得心之上相対を以土砂方御奉行様之御入用迄年々銀五拾目御出銀被下、尤毎年十一月晦日迄ニ両用共合銀七拾目当村江直々御納メ被下候約定仕候、然ル上者立木生立候節ハ何時成共祓伐之節其元衆中より差図次第ニ土砂方御奉行様江早速願出可申候、右山年限中聊差支毛頭申間舗候、為後日差入申一札依而如件

嘉永五子年十一月

城州久世郡
槇島村

白川村
新次郎殿
庄次郎殿
利右衛門殿
市左衛門殿

六　書付写（六石山諸証文）

（表紙）

書付写

宛山一札之事

（No.3にあり、略）

乍恐口上書を以奉願上候

一槇島村持字六石山之儀、去ル文化六巳年より山年貢壱ケ年ニ銀六拾目宛ニ而白川村江永世宛山証文請取銀廿三貫目出銀いたし

置、今寅年迄請来り候処、此度槇島村より右地所差戻シ候様懸合有之候得共、談シ出来不申候ニ付、槇島村より及御出訴ニニ付、双方へ厚御利解被為成下、猶又精々及対談候得共、談シ出来不申候折柄、同州綴喜郡内里村周助当郷宿江参り合居り互ニ存知合之間柄ニ付、対談之手続及承り候上、則同人仲人ニ立入取曖、右一件事済仕候趣左之通りニ御座候

一右山之義是迄請来り候場所ニ候得共、此度依取曖立木追々ニ祓伐り仕地所差戻シ可申候ニ取極、尤苗木者相残シ可申候、且又立木祓伐り之節者白川村より通達有之候得者槇島村より早速土砂方御役所江願出祓伐り差支無之様取斗可申候、相互ニ為取替一札者仲人江相渡し宛山証文之義者槇島村へ為差戻、右一件都而和済相調事済仕候義ニ相違無御座候、然ル上者自今双方共聊申分無御座候、依之今般乍恐双方并取曖人連印形を以済口書奉差上候間、乍恐右願之趣御聞済被為成下置候ハヽ一同難有仕合奉存候、以上

天保十三寅年
十二月十六日

槇島村
庄屋　与右衛門
同　惣次
年寄　五郎右衛門
同　新九郎
同　伝七
年寄　与八郎
百姓惣代重兵衛

白川村
庄屋　利右衛門
年寄　与兵衛
市左右衛門（カ）
新二郎
徳兵衛
久五郎
弥兵衛

上林六郎様
御役所

前書添口書之通り相互ニ急度相守り可申候、為後証双方連印形之書付為取替置候処、仍而如件

槇島村　惣代
庄屋　与右衛門
同断　宗次
年寄　伝七

白川村　庄屋　利右衛門
年寄　与兵衛
新二郎

取曖人内里村
周助

一札之事

一六石山出入一件之義、此度内里村周助殿取曖を以内済仕候ニ付、則其趣上林六郎様御役所江済口書奉差上候上者、約定之通り右一山之立木祓伐り相済候迄、譬下草たりとも当村之もの□□猥成義決而為致間敷候、為後証別紙一札依而如件

天保十三寅年十二月
槇島村

庄屋　与右衛門
同　宗次
年寄　五郎右衛門
同　新九郎
同　伝七
同　与八郎
百姓惣代重右衛門

白川村
御役人中
山請負人中

立木買取証文之事

一銀三拾貫目也

右者各々方江当村領山字六石山下作宛山ニ致置候場所、従先年植付被置候立木伐り残り之場所、村方示談之上昨辰年前年山一曖之手続ニより内里村周助殿相頼、則同人口入を以昨九月立木代銀三拾貫目即銀ニ買取可申候処実正也、然ル所村方銀子不融通ニ而渡シ方段々及延引、依之尚又周助殿相頼当年十一月晦日迄村方借用銀ニいたし申処実正明白也、然ル上者右限月ニ至り銀子不調達ニ候ハヽ、先達而山内伐り取願済之場所より勝手ニ立入伐り取可被成候、其時一言之異事申間敷候、且其余之場所者先年取替せ証文面通り土砂方御奉行所江御願可申上候、聊差支無之様取斗可申候、尤一山立木追々ニ伐り取相済候迄ハ、村方之もの山内江相立入申間敷候、為後日一同連印証文差入申候処依而如件

弘化二巳年六月

城州久世郡槇島村
庄屋　宗次
同　幸助
年寄　伝七
同　重右衛門
同　新九郎
同　清右衛門
先庄屋与右衛門

城州久世郡白川村
六石山下作宛衆中

前書之趣聊相違無之、万一不埒之筋御座候ハヽ、拙者罷出急度埒明可申候、依之奥書印形仕候、以上

城州綴喜郡内里村
曖人　周助

一二〇　一札（金井戸山新道につき）

一札

一貴殿御所持金井戸山鮎汲場之上之手ノ谷筋へ此度新ニ小道を付下刈柴等浜出し致度段御頼申入候処、御承知被下忝、依之任御差図新規ニ巾弐尺通り道を付通行致候義ニ御座候、尤此道筋之左右立木ハ勿論下柴等ニ至迄猥ニ伐採申間敷候、若又格別之邪魔ニ相成候事於有之ハ御談申候上ニ而苅分可致候、万一不埒之取斗気偏いたし候義有之ハ、何時ニ而も御塞通行御差止可被成候、為後証道筋借り受証文如件

白川村

文化九年申十一月　　武兵衛
　　倅
　　市左衛門
宇治新町
　喜兵衛殿
　又四郎殿

一二二　定（葬礼等仏不付合につき）

（端裏書）
「控」

定

一毎年七月十五日夜念仏講中村方鉦太鼓回廻仕来り候処、新次郎義ハ当盆村方対不作法之儀有之故銘々付合不致段為取替書付致置候ニ付、右回廻ニハ新二郎方へハ不申参候処、五郎兵衛倅五兵衛中町五兵衛両人右新二郎方へ参り不申段難済、年番之衆中か様之勝手致被申候ハヽ、此方年番に当り候節者勝手致候間申之候故、其訳念仏講惣参会之上五郎兵衛方ニおいて中之町五兵衛諸共居合ニ上ニて口論およひ候処、右両人共勝手斗申募り候間、一統得心之上新二郎者勿論五郎兵衛五兵衛□者以来講内相除キ、随而葬礼者勿論毎歳回廻之儀一統参り不申段急度相究候間、右之通相互ニ堅相守可申、此度書付仕置候依而如件

文化十三年子七月十五日夜

念仏講得心一統
世話人
市左衛門

源三郎
清蔵

一二三　一札（白山社山林村方取斗につき）

（端裏書）
「市左右衛門持」

一札

一境内白山之社惣体修復之砌入用銀半銀ハ坊屋敷反別掛り半銀ハ山林之樹木を伐り取修復致来候処、右白山社惣体修復并境内山林之儀共此度出入論所ニ罷成、去戌十月村方より御願申上候処、宇治郷名主儀右衛門取扱を以、向後惣修復并境内山林其外境内付之御年貢山樹木等伐取候義共、両組村役人中迄相知セ相対仕双方共万事得心之上相互申分無之様可致候、右修復之外境内山林共心侭猥ケ間敷義致間鋪候、且亦境内之儀親類一家共より差構申させ間敷候、右為後証双方より為取替証文、尤合印致置候処依而如件

明和四年亥三月二日

城州久世郡白川村
白山社僧
福泉坊
和泉印
煩ニ付代
台厳同
宇治郷
取扱人儀右衛門同

白川村両組
庄屋

年寄
氏子惣代中

一札

一白山之社地御境内惣御修復并山林之儀共、御修復之砌ハ村方江相対之上御修復等被成来候処、此度心侭之由被申候ニ付、村方と出入論所罷成、則去戌十月村方より御願申上候処、宇治郷名主儀右衛門以取扱向後双方より御境内之樹木伐り取申間敷候事、右御修復并御境内之山林樹木等御伐取被成候砌ハ、両組村役人共迄御知セ被成候筈ニ弥相定候、尤木のこ之義并少々之立枯木等ハ自坊薪用斗之儀、是迄之通申分無之候、右御境内山林其外御社付御年貢山樹木之分ハ御社御修復用之義御座候ハヽ、御境内□□御修復用之外村方より茂後々至迄無案内猥ケ間敷儀仕候ハヽ、神慮ヲ掛相慎可被下候、且亦此度申定之通急度相定可申候、尤御社法之義ハ村方より指構申間鋪候、右為後証連印仕双方より取替セ証文尤合印仕置処依而如件

明和四年亥三月二日

庄屋　伊兵衛印
同　【　】
年寄　源兵衛同
氏□惣代□兵衛
善太郎同
平左右衛門同
清七同
藤兵衛同
権七同

福泉坊
和泉殿

一前文明和四亥年為取替証文通り是迄双方相守来候処、此度福泉坊和済命終被致□□□相義当五月不埒ニ付退坊被致、福泉坊無住ニ相成候ニ付、自今境内山林修復万端村方より取斗可仕ニ相極、境内御宮付之山林樹木落木立枯等ニ至迄修復用之外一切伐り取申間敷義、弥已来急度可相守条此度相極候上ハ、村内不筋之儀申合候者有之候共、壱人ニ而も正路之申条ニ可為随意事、且亦修復之節□□并坊跡持へ申談取斗可申候、修復料之義為取替文面之通出銀可被致候、右之条々永世為可相守連印仕置銘々一札所持致候、為後証依而如件

長五郎（印）
与兵衛（印）
清兵衛（印）
五郎兵衛（印）
平左衛門（印）
弥兵衛（印）
佐兵衛（印）
平七（印）
儀兵衛（印）
太兵衛（印）
清次郎（印）
伝三郎（印）
吉左衛門（印）
孫兵衛（印）

藤兵衛（印）
新次郎（印）
重五郎（印）
弥右衛門（印）
甚兵衛（印）
久五郎（印）
新五郎（印）
庄兵衛（印）
市左衛門（印）
源三郎（印）
清蔵（印）
庄次郎（印）
新五郎（印）
伊兵衛（印）
五兵衛（印）
新蔵（印）
勘三郎（印）
勘七（印）
善兵衛（印）
長四郎（印）
徳兵衛（印）
善次郎（印）

百姓惣代
年寄　平治（印）
庄屋　利右衛門（印）

文化十四丑年六月

白山宮

一二八　譲り渡申山之事（惣領山）

譲り渡申山之事

東川限り
西峯限り
南勘兵衛
北弥兵衛

字とうげ
一山壱ケ所　御年貢銀六匁　四方境目

右者惣領山四方境目之内立木生立之侭此度一同相談之上代金拾両ニ相極メ譲り渡、則金子慥ニ皆済也、然ル上者御勝手御差配可被致候、為後日譲り一札左ニ連印依而如件

天保八酉年三月

上町年行事
平兵衛（印）
中町同断
庄治郎（印）
下町同断
作次郎（印）
百姓惣代
久五郎（印）
年寄
徳兵衛（印）
庄屋
利右衛門（印）

市左衛門殿

一四三　譲り渡シ申坊跡地面之事（西之坊）

譲り渡シ申坊跡地面之事

西之坊八畝弐拾歩之内
一弐畝五歩也　四方境　東其元限り　南勘兵衛限り
西自分限り　北市左衛門限り

右之地面前々より我等所持来り候得共、此度無拠要用之儀ニ付為樽代銀子百三拾匁九分壱リニ相極メ、則銀子慥ニ受取貴殿方江譲り渡シ申処実正也、然ル上者貴殿御勝手ニ御支配可被成候、尤此方境目限り之外苅剥等者少シ茂取申間敷候、右地面ニ付他之妨一切無御座候、為後日譲り証文仍而如件

嘉永五　譲り主　伊兵衛（印）
子四月日　庄屋　市左衛門（印）
年寄　権七（印）

清蔵殿

五八三　宛置申地面之事（福泉坊裏屋敷）

宛置申地面之事

福泉坊裏屋鋪
一地面　壱ケ所　四方境　東六所権現　西利右衛門限り　南福泉坊限り　北宇治森川限り　又利右衛門限り

御年貢銀拾三匁五分五リ極メ
毎年十二月五日限り村納

右之地面当時荒地ニ而此度就勝手ニ鋪金弐両ニ相究右地面当辰年より六拾ケ年之間其許江宛置申候、則鋪金慥ニ預り申候処実正明白也、然ル上者其許御勝手ニ支配可被致候、右年限相立候ハヽ、預り置候鋪金弐両無相違急度差戻シ可申候、右地面ニ付彼是故障申もの一切無之候、万一違背申者出来いたし候ハヽ、当院より急度埒明致、其許江少シ茂御難義相掛ケ申間敷候、為後日依而如件

安政三年辰三月　白山金色院蔵之坊兼帯　恵心院　法印（印）
同院役人　林甚三郎（印）
白川村　市左衛門

五八四　一札（奉納金受取）

一札

一宝金弐両也　但し大東山境目桧木代

右此度御奉納被下恙寺納仕候、長家運繁栄之祈念可仕依而如件

安政三　宇治
辰六月　恵心院法印　良宥（花押）
白川村庄屋　市左衛門様

五八六　差入申一札之事（地面故障につき）

差入申一札之事

字山王
一上畑弐反六畝十八分
字内藪里
一上畑弐反廿七分
右之地面ニ付故障出来候処、宇治寺島屋弥介曖　ヲ以金四両慥ニ請取申候、向後右地面ニ付故障ケ間敷義無御座候、為後日之仍而如件

安政三年　　恵心院（印）
辰十一月
白川村
役人中

五八七　覚（宮山雑木代等受取）

覚
一銀弐百七拾壱匁壱分五厘　但し宮山雑木并桧木代
右之通慥ニ受取相済申処如件

安政四巳年　　蔵之坊兼帯
九月五日　　恵心院（印）
白川村
庄屋市左衛門（印）
半四郎殿

五八八　覚（宮山松木立枯代受取）

覚
一銀三百五拾壱匁八分　但し宮山松木立枯代共
右之通慥ニ受取相済申処如件

安政四巳年　　蔵之坊兼帯
九月五日　　恵心院（印）
白川村
庄屋市左衛門（印）
重五郎殿

八　乍恐以書付奉願上候（村借財済方につき）

乍恐以書付奉願上候
城州久世郡白川村之儀年来村借財并未進銀等ニ而困窮弥増罷在候処、近年未進銀之儀者奉懸御苦労御蔭を以夫々相片付難有仕合奉存候、然ルニ村借財之儀者何分年々利足而已相渡居候而者困窮立直候期も無之、難渋心配罷在候ニ付、小前一同打寄種々申談候ニ付而者
当時
村借財高銀弐拾壱貫目
内銀拾貫目　村方分限割尚又頼母子
講相企候而出銀可仕積
残銀拾壱貫目
右拾壱貫目相残候主法勘弁仕候処、最早出方も無御座候ニ付、家数三拾五軒壱軒ニ壱ケ月縄三束ツヽ稼増仕十二ケ月分三拾六束三拾五軒分壱ケ年ニ千弐百六拾束、但壱束ニ付壱匁之積代銀壱貫弐百六拾匁、猶又銀弐百目村山松茸代銀弐百目浜戻り銭此二口者年々村入用ニ支払罷在候得共、右三口〆壱貫六百六拾目ツヽ年々右村借財江差入、利足月八朱之積を以算当仕候処、十三ケ年なら

て者元利済切不申、何分長年季ニ而者右様日々之稼増月懸ケ等之主法難渋勝之もの共ニ付迚茂相続難行届哉与奉存、付而者右此度之分限割之出方申付候ニも抱り候次第も有之、年六朱之利足を以右主法ニ仕候ハヽ、九ケ年ニ而皆済ニ相成、左候得者一同□ニも罷成主法相立候儀ニ御座候、依之何卒右下利之御貸付金御座候ハヽ奉恐入候御願ニ者御座候得共、御仁慮を以拝借被仰付被下置候ハヽ、難有仕合奉存候、乍併右者難被仰付御儀ニ茂御座候ハヽ、同御支配所之内身元宜もの江御御聞懸等被成下置出金仕呉候ハヽ、拝借金同様年々利元共割済返済仕可申、左候ハヽ一村相続被仰付被下置候儀与幾々世々難有仕合奉存候、右願之通御聞済被成下候ハヽ、偏ニ御仁恵と一同難有仕合奉存候、以上

久世郡白川村
庄屋　市左衛門印
年寄　伝三郎印
百姓代　重五郎印

信楽
御役所

安政四巳年十月三日

五九四　借用申銀子之事（白山宮修復銀）

借用申銀子之事

去巳年七月中大風雨ニ而白山宮山林之内桧木松木雑木風荒ニ付、双方立会之上同八月十五日夜入札売払代銀六百廿弐匁九分五厘同銀弐拾五匁四厘入札入用引之残銀左之通り

一銀五百九拾七匁九分壱厘
　此利六拾五匁七分七厘　去巳九月より当午七月迄〆拾壱ケ月
　壱歩利足庄屋市左衛門より上ル
〆六百六拾三匁六分八厘
　内
　銀三拾五匁八分　宝蔵修復ニ付石灰拾弐俵代
　　貴院様江相渡引之
　同八拾六匁　右風荒木立会見分之節さけさかな代
　　美のや市郎兵衛払引之
弐〆
　銀五百四拾壱匁八分八厘也

右之残銀白山宮修復手当銀慥ニ借用申処実正明白也、尤返納之義ハ右修復入用之節無相違急度返納可致候、為後日借用証文依而如件

安政五午年　白川村
八月　借用主　庄屋　市左衛門
　年寄　伝三郎
　百姓惣代　重五郎

蔵之坊兼帯
恵心院
法印様

五九七　覚（白山寺坊修復入用受取）